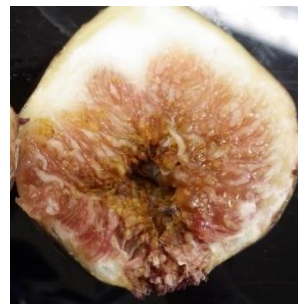


# イチジクのアザミウマ類対策

アザミウマ類は、イチジク果実内部に被害を及ぼすため、外観から加害状況がわからず、防除が難しい害虫です。

(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所では、イチジクほ場で発生するアザミウマ類の発生時期を調査するとともに、薬剤以外の防除対策について実証試験を行い、これらの成果を技術資料としてまとめました。なお、現地ほ場での実証試験は泉州農と緑の総合事務所の協力を得て実施しました。



アザミウマ類によるイチジク果実の被害

## アザミウマ類

- ・体長1~2mm。成虫が果実に侵入し、内部を変色させる。
- ・ネギアザミウマ、ヒラズハナアザミウマ、ハナアザミウマなどが加害する。
- ・発生ピークは5月下旬~6月中旬である。  
(2013~2016年羽曳野市で調査)



開口したイチジク(上写真)、ネギアザミウマ成虫(下写真)

## 薬剤による防除

- ・5月下旬~6月上旬に薬剤を2~3回散布する。
- ・イチジクの目は6月上旬以降に開く。

## 薬剤以外による防除

### 赤色防虫ネットによる障壁

- ・商品名：サンサンネットe-レッド(目合0.8mm)
- ・アザミウマ類成虫が園内に侵入するのを防ぐ。  
(青色はアザミウマ類を誘引する)
- ・障壁は150cm以上の高さで設置することが望ましい。
- ・強風に弱いため、鉄パイプなどで補強する。
- ・アザミウマ類成虫侵入前の5月中旬までに設置する。



赤色防虫ネット設置の様子

### 光乱反射シートによるマルチ

- ・商品名：てるてる、タイベックなど
- ・アザミウマ類成虫をかく乱し、イチジク樹体に向かうのを防ぐ。
- ・光を乱反射させるため、反射率が高いシルバーマルチより作業者のまぶしさが低減される。
- ・アザミウマ類成虫侵入前の5月中旬までに設置する。
- ・シート幅は複数あるので、ほ場の畝幅に合わせて設置する。



光乱反射シート設置の様子

### 雑草管理

- ・アザミウマ類は雑草にも発生するので、以下の管理を行う。

5月中旬まで (アザミウマ類成虫侵入前)	草刈りを実施し、アザミウマ類の発生を抑制する。
5月下旬~6月中旬 (アザミウマ類成虫侵入時)	草刈りを控え、アザミウマ類の移動を防ぐ。

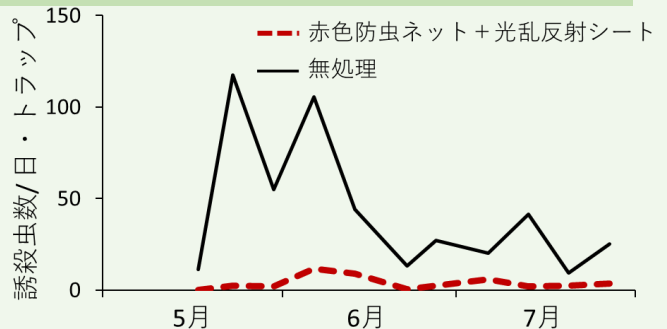
# アザミウマ類の防除カレンダー

月	旬	イチジクの生育状況	アザミウマ類の対策
4	上	発芽 アザミウマ類の発生量 少 ← 多	4月下旬～5月上旬に草刈りを実施
	中		
	下		
5	上	}	赤色防虫ネット設置 光乱反射シート設置 } 5月中旬までに実施 5月下旬以降は草刈りを控える
	中		
	下		
6	上	一番果の目が開く (果実サイズ2～3cm) 果実肥大 ↓	6月下旬以降は発生予察情報を確認し、アザミウマ類の発生が多い場合は薬剤を追加散布
	中		
	下		
7	上	収穫開始	☆薬剤のみでは防除が難しいので、 薬剤以外の防除方法を組み合わせましょう
	中		
	下		

## 赤色防虫ネットと光乱反射シートによるアザミウマ類の防除効果 (2017年、岸和田市)

表 イチジク果実の被害状況およびアザミウマ類の果実内虫数 (8月9日)

処理	被害果率	果実内虫数 (個体/果)
赤色防虫ネット + 光乱反射シート	25%	1.7
無処理	90%	16.7



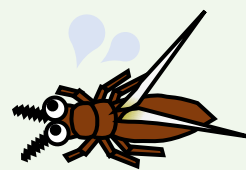
### 光乱反射シートのマルチ

アザミウマ類成虫をかく乱し、イチジク樹体に向かうのを防ぐ



### 赤色防虫ネットの障壁

アザミウマ類成虫が園内に侵入するのを防ぐ



=問合せ先=

地方独立行政法人

大阪府立環境農林水産総合研究所 食の安全研究部 防除グループ

〒583-0862 大阪府羽曳野市尺度442

TEL: 072-958-6551

FAX: 072-956-9691